



えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.11

令和2年9月18日

文責：校長 福島

コロナ禍だからこそ大切にしたいこと



写真は3年生の給食の様子です。シールドを立て、みんな前を向いて黙々と食べています。1年前は机をグループにして楽しく会話をしながら食べていました。早く元のような給食時間の風景が戻ることを願ってやみません。

そんなコロナ禍の学校で、心に残る出来事がありました。

今週のある日の午後、私は給食室横の側溝掃除をやっていました。シャベルで側溝にたまった泥をかき出していると、ちょうど高学年の下校時刻になりました。すれ違う子供たちが声をかけてくれます。「あっ、校長先生！ありがとうございます。」「お疲れ様です。」「無理しないでくださいね。」「ありがとうございます。」「さようなら。」声をかけてくれるのが数人ではないのです。黙って通り過ぎる子供がいなくても大げさではありません。下校時ですので担任はそこにはいません。指導されて言っている言葉ではなく、子供たちから自然に出てくる言葉です。こんなにうれしいことはありません。

次の日のことです。3時過ぎに雨上がりの運動場を1人で歩いていると、「校長先生ー!!」ポケットクラブの方から無邪気な声が聞こえました。遠くだったので誰かはわかりませんでした。大きく手を振っています。「はーい、こんにちは！」大きく手を振り返しました。

春日小では、あいさつをはじめ思いやりを形にするスキルの育成を重視しています。ちょっとした2つの出来事ですが、無邪気で温かい子供たちの姿に大きなエネルギーをもらいました。「こんな素敵なかすがっ子のために、頑張ろう。」素直にそういう気持ちになりました。

人とのかわりが難しい時代だからこそ、「つながり」を大切にしたい教育を行っていきます。